

全国道の駅連絡会からの報告

～道の駅「3ステ応援」徹底サポート計画～



2025年3月21日

一般社団法人 全国道の駅連絡会

全国道の駅連絡会の方針（「3ステ応援」徹底サポート計画2027）

◎道の駅第3ステージ「まちぐるみでの道の駅活性化」を徹底サポート
～全国ネットワークを活かした道の駅駅長間の連携、情報共有の推進等～

◎国交省「第3ステージ・応援パッケージ」施策にあわせて、対象駅を問わず、
ブロック連絡会や女性駅長会、賛助会員企業の協力を得ながら広範にサポート
(3ヶ年計画：100駅個別支援目標)



1. 道の駅向けアドバイザリー制度（連絡会が費用一部負担）

「3ステ応援」アドバイザリー制度 等

2. 関連情報の共有、意見交換の推進

全国道の駅「3ステ応援」駅長サミットの開催 等

3. 官民連携事業のさらなる推進

「3ステ応援」連携事業の新規開発 等



1. 道の駅「3ステ応援アドバイザリー」制度（仮称）：R7年8月～開始予定



＜目的＞ 道の駅「第3ステージ」（「まちぐるみ」道の駅）の実践を支援するため、駅長/経験者やテーマ別専門家の知見やノウハウの共有、連携を推進する

＜概要＞ 「**3ステ応援アドバイザリー制度**」（仮）を新設（当面3年間を計画）
～旧）講師派遣/アドバイザー派遣制度を統合～

（アドバイザーの要件）

- ① 「まちぐるみ」で道の駅の活性化に取り組む、道の駅の駅長またはそれに準ずる立場の方（現役、経験者）
- ② 地方創生や地域振興、データ分析・マーケティング等に精通し、道の駅の活性化（まちぐるみ・道の駅）についてアドバイスを行える方
- ③ 自薦他薦を問わず、ブロック連絡会/女性駅長会にて推薦する方<公募>

駅長アドバイザー登録のプロセス



道の駅「3ステ応援アドバイザリー」制度（仮称）：R7年8月～開始予定



（アドバイザー登録、リスト化）

- ・全国連絡会にて「3ステ応援アドバイザー」として登録リスト化
- ・テーマ別にて2～3名程度を計画（初期は計20名程度）
<テーマ（案）>

- ①経営全般（財務/補助金、人材育成等）
- ②マーケティング（商品開発、販促、情報発信、EC含む）
- ③地方創生/地域振興（関係人口・二地域居住等含む）
- ④観光/インバウンド
- ⑤温浴・宿泊施
- ⑥防災
- ⑦エネルギー（EV、太陽光、蓄電池等）
- ⑧その他

「道の駅」の運営に関する課題例

分野	想定される課題
経営	収益向上、コスト削減、会計制度 等
商品開発	ヒット商品、特產品の開発 等
人材	リクルート、教育・育成 等
観光機能	周辺観光施設連携、外国人対応 等
情報発信	広報戦略、HP作成・改良、Wi-Fi環境 等
地域振興	移住・定住促進、雇用創出 等
防災機能	耐震化、備蓄倉庫、非常用電源 等
その他	施設老朽化、リスク対応、防犯対策 等

<従前のテーマ>

アドバイザー依頼までのプロセス



道の駅「3ステ応援アドバイザリー」制度（仮称）：R7年8月～開始予定



（3ステ応援アドバイザーの役割）

- ・担当テーマにおける案件への個別アドバイス（テレカン・訪問）
 - ・研修会、勉強会等での講師、会議出席
- +
- ・テーマ別の「駅長チャット」の運営
 - ・「駅長サミット」等全国イベントへの参加、情報提供等



（「3ステ応援アドバイザリー制度」の費用）

- ・謝金、経費等の一部を全国道の駅連絡会にて予算化（年間30駅程度を計画）



2. 全国道の駅「3ステ応援」駅長サミット2025の開催（案）



全国道の駅駅長サミット2025



Supported by

道の駅
「3ステ」応援
徹底サポート計画
2027

【主旨/目的】

- ・道の駅第3ステージ（まちぐるみ・道の駅）の実現に向けて有用な情報共有、意見交換を推進
- ・駅長（運営管理者）の参加率を高めるため、既存の「道の駅 地元の元気プロジェクト」と連携しシナジー効果をねらう

【テーマ案<仮>】道の駅第3ステージ応援、**「まちぐるみ・道の駅」の実践開始！**

【概要】 ◇主催：全国道の駅連絡会 ◇協力：国土交通省道路局、ブロック「道の駅」連絡会
◇特別協賛：明治安田 ◇一般協賛：各社（募集）

【日時】 **令和7年5月23日（金）**

13：30～17：30（交流会～19：00）

【場所】 東京丸の内マイプラザ（明治安田ホール）



【内容】 ◇挨拶・基調講演 ◇道の駅の取組状況
◇3ステ応援「駅長ディスカッション」

◇ソリューション提案（賛助会員）
◇地元の元気プロジェクト活動報告 等



3. 官民連携事業のさらなる推進（最近の動向①：インフラ整備）

【インフラ整備系】

○EV充電設備の導入（社会実験）<現在、30駅>

- ・R6.7よりEV事業者4社と展開中/運用面を含め各種検証
 - A社：蓄電池式の超急速充電/超急速ニーズと価格受容性を検証
 - B社：超急速充電/従量課金制、ETC決済運用を検証
 - C社：経産省推奨出力(90kW)/利用者の滞在時間等を検証
 - D社：50kW出力/クーポン販促連動検証、CO₂削減量の数値化



○スマートゴミ箱の導入に向けた実証実験

- ・深刻化するゴミ問題への解決に向け、IoT技術を活用したスマートゴミ箱（自動圧縮、集積状況通知）の実証実験
- ・ゴミ収集作業の効率化、回収コストの削減を図る
- ・特にオーバーツーリズム対策としての課題解決の効果を検証



○野菜の鮮度を引き立たせるAI照明の実証実験

- ・AI技術を活用し自然光の明るさ、商品に合わせた調光など、節電効果と収益アップ検証する実証実験
- ・蛍光灯からの切り替えに向けたソリューション提案を継続実施





官民連携事業のさらなる推進（最近の動向②：地元産品活用）

道の駅
3ステップ応援
徹底サポート計画
2027

【地元産品を活かす事業】

○地元の日本酒・ワイン AI 販促ツールのコンセプト調査

- ・地元酒類の販促策としてAIを活用した商品ガイドを行うシステム
- ・販売サポートによる売上向上、スタッフ不足を補完等
- ・言語切替機能で外国人向け対応可
- ・酒データとキーワードを紐づけ、最適なマッチングを提案



○地元の「水」や特産品を活かした新しい収益事業提案

- ・地元「水」を強炭酸の飲料に仕上げてお客様に提供
- ・地元水と果物等の「特産品」を活かした商品を新たに提供し収益化（ソフトクリーム事業に似たモデル）



○公式オリジナル商品『道のいいもの』の新商品を販売

- ・全国の道の駅と協力し地域に根付いた産品の全国流通を促進する、公式オリジナル商品「みんなでつくる『道のいいもの』」シリーズの新商品として「道のだし」「道の思い出ばこ」を発売
- ・協力：道の駅「風早の郷 風和里」（松山市）／「みやこ」（宮古市）「いちかわ」（市川市）／「保田小学校」（鋸南町）等





官民連携事業のさらなる推進（最近の動向③：EC・来客キャンペーン等）



【ECサイトのリニューアル】

○全国版公式ECサイトを本格運用へ（R6年4月～）<現在、65駅>

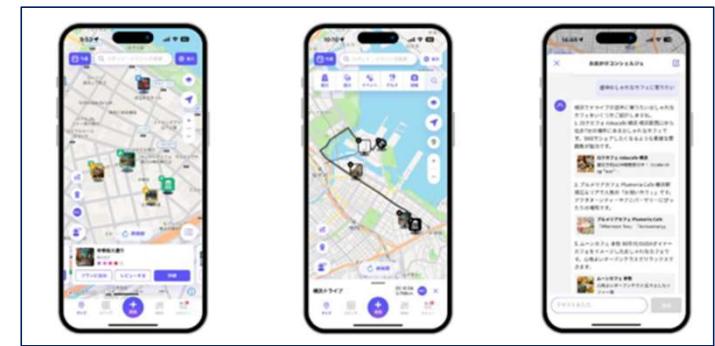
- ・道の駅のオリジナル商品や各地域こだわりの商品等を販売
- ・商品紹介のほか各地域の道の駅や生産者の方々の魅力も発信
- ・R7～、専用サイトを立ち上げるほか、越境ECも実施



【来客キャンペーン系】

○自動車情報サービスにおけるMAPアプリへの参画<340駅>

- ・自分だけの「お気に入り MAP」を作成するサービスに対応
- ・本アプリ利用促進策「チェックインラリー・キャンペーン」に、SA/PA (NEXCO)・観光スポット（日観振）と共同で参加



○企業・団体の福利厚生代行サービスとの提携による来客事業

- ・道の駅は来駅促進のためのクーポンや特典等情報を登録（無料）
- ・事業者の会員（企業・団体の職員）向けに、発行する情報誌やウェブサイトで道の駅と特典情報を掲載し誘客図る
- ・「ソフトクリーム」や「温浴」などの特集企画では、事業者が特典（割引等）を上乗せしカロリーアップ図る



<参考>これまで取り組んできた「道の駅活性化プロジェクト」（抜粋）

公益/地方創生事業	経営基盤づくり支援事業	新規収益集客事業
地方創生、社会課題解消型事業	経営インフラ整備の支援事業	道の駅魅力化に資する支援事業
災害対策支援/BCP策定支援	キャッシュレス決済	メディア化：ポスター
外国人向け防災情報提供	通販/EC（おうちで 道の駅！）	メディア化：サイネージ
子育て支援	越境EC/通販（対台湾）	ドライブイン・シアター
健康増進活動支援	アンテナショップ	オリパラグッズ販売
MaaS導入支援	コンビニ連携	道の駅公式ブランド商品
トイレ等衛生環境向上	トリップベース道の駅連携	「道ゆきマップ」販売事業
省エネ型浄化槽導入補助事業	道の駅公式Twitter・YouTubeチャンネル	ドライバーリフレッシュ啓発
発電機整備	スマートストア（無人店舗）	農産物販促プロモーション
ドローン地域物流・防災	EV「超」急速充電施設	農水省ニッポンフードシフト連携
新技術コンクリート	AI照明	